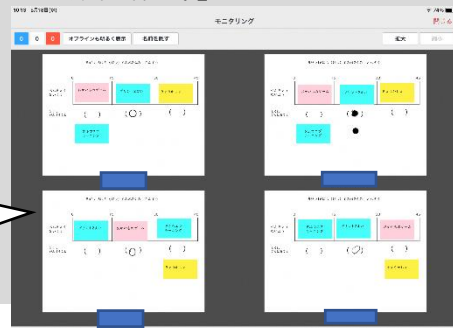


After☆ICT
質問箱

【ICT 活用実践紹介】



おたがいのがんばりを
可視化

5がつ16にち (げつ) すみれ2くみ さんすう



1 時間を 3 つに分ける

がんばるところに○

児童が動かせるカード

【花里小 岡田の実践「特別支援学級」】

教科：算数

活用ツール：「MetaMoji ClassRoom」

類型：B4（表現・動作）

内容：授業の流れの見通しをもつ。活動を自己決定する

1. 【準備】 その時間、児童が行う
2. 【準備】 「MetaMoji ClassRoom」の「個別レイヤー」に本時に児童が行う活動を示すカードを作る。
3. 【児童】 授業が始まったら、自分の行いたい活動を選択し、並べる。
4. 【児童】 3つの活動のうち特に頑張りたい活動に印をつける。

【ICT 質問箱】

#特別支援

#算数活動例



特別支援学級での ICT を活用した算数の活動を具体的に教えてください。

今、主に行っている内容は、学力に合わせた教科書やプリントのほかに、実際の体験活動として、「重さ」「長さ」「お金（計算）」の活動です。教科書はデジタル教科書を活用しています。プリントは、印刷せず、プリントの写真を「MetaMoji ClassRoom」に貼り付けています。「重さ」「長さ」「お金」は、実生活と関連付けるためや量感をつかませるために体験的な活動を入れています。「重さ」「長さ」「お金」の3つの実践は次回の ICT 通信で紹介をさせていただきます。

岡

【岡田のおもいつ記】

今回の実践の ICT の活用技術としては、前回のものとはほとんど同じで、児童が操作できるカードを作成するというものです。しかし、使う目的が違うので、タイミングも授業の最初で活用します。児童が本時の学習の見通しをもつ、内容を自己決定する場面を想定しているの、慣れてくれば授業が始まる前、自分から取り組めるといいなと考えています。児童の実態を考えると集中力の持続が難しく、15分程度の活動を3回繰り返す方が彼らの学びにあっていて感じました。なので、座学だけではなく、体を使った活動のカードも入れました。「MetaMoji ClassRoom」のモニタリング機能を電子黒板で使うことで仲間の取り組みを確認することもできます。児童は6年生4名ですが、それぞれ学力も違えば、学ぶ内容も違います。それを一人で指導するためには、児童自身が「何をするか」が明確になっている必要があります。そして、活動を自己決定することで、課題が自分事となり一人でも活動しようとする姿が見られると思います。そうすることで、教師が児童を指導する時間が増えることもこの実践のよさだと思えます。